



大学の主な収入源



種類 	学納金	補助金・交付金	寄付金
払う人 	学生・保護者 	国民 	卒業生、地域、企業 etc.
何を期待して? ★★★★	教育力 卒業後、変化の激しい社会の中で生き抜く力を養成する教育に期待	大学改革 社会に必要な取り組みをすることに期待	目的による それぞれが大学に望むことの実現を期待
将来性 ↑	 18歳人口減少、定員管理の厳格化により増収は見込みにくい	 国家財政の厳しさにより増収は見込みにくい	 大学の努力により増収は大いに可能

ステークホルダーとお金、そして大学改革

教育力を高めるためのアクティブ・ラーニング用施設の建設、研究力を高めるための最新研究機材の購入、国際性を高めるための留学生募集費用や外国人教員の雇用、エビデンスに基づく議論のためのIR部署の設置 etc...

今、大学に求められている各種改革には、当然のことながら多くの費用がかかる。いずれも「質保証」のためには必要なことであろう。しかし、上の表に示したように、学納金や補助金・交付金の増収は今後期待しにくい。寄付金を増やすなど新たな収入源の開拓と、将来に役立つお金の上手な使い方（好循環モデル）を考える必要がある。そこそが18歳人口が1割減ることが予測される10年後も生き残る道筋となろう。

大学の主な収入は、学生（学納金）、国民（補助金・交付金）、そして卒業生や企業、地域（寄付金）が払っている。つまりお金について考えることは、各ステークホルダーの自学に対する期待と、それに応えているか、を考えるとということ。期待に応え続けるための改革とお金の使い方が、今、大学に問われている。

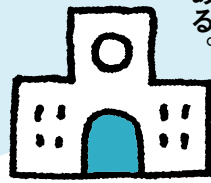
学納金、補助金、寄付金 etc.

お金から

考える

大学改革

大学は、社会の変化に対応し、その期待に応え続けていくためにさまざまな改革や取り組みを続けていく必要がある。18歳人口減少時代を迎えた現在、その改革に必要な資金をどうするか？今回は「お金」の調達の仕方、使い方から、大学改革について考えてみたい。



自学はどうですか？

